

石台孝經碑

天宝4年(745)
(唐時代)

旧い書法様式の刻石⑨ 木 雜 伊藤 滋

図版②「石台孝經碑・卷頭」



図版④「石台孝經碑・第一面整拓本」



西安碑林博物館の中庭の正面に位置する。唐の玄宗皇帝が儒教の經典である「孝經」に自ら注を加え筆を執り、石碑に刻させた。この碑は、碑陽、碑陰、左右側の四面とも同じ大きさである。

り、各四面は、四つの板状の石材を組み合わせて、その上部に碑額を含む碑頭を載せて、一つの大きな石碑を構成している（高さ620cm、幅120cm）。三面は各十八行、一行あたり五十五字で書

かれていて。第四面は七行、後半には行書の題記や題名が書かれている。本文は流麗で伸びやかな趣の八分隸書である。一字の大きさは、横幅が約5.5cmであり、また文中に書き入れられた注の小字（主図版①の一行目参照）は、横幅が約2cmである。

碑額は皇太子・李亨の手になり、篆書体で「大唐開元天寶聖文神武皇帝注孝經臺」（図④）と刻されている。碑面の文字是非常によく保存され、ほぼ全体を見ることが出来る。皇帝が儒学の經典である孝經を書くに用いた隸書は、大きな権威を示す役割も果たしているのではなかろうか。玄宗皇帝は、以前この頁でも紹介した「紀泰山銘」を始めとして数種の隸書碑を遺している。

次号は、「吾台銘」（篆書）です。この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp

図版① 「やや縮小」 祀文「(吾語) 汝。身體髮膚、受之父母、不敢毀傷、(孝至始也。)」



書道芸術院

平成の群像 (2013)

山口県書を楽しむ人たち展 福寿海



現代詩文書の魅力は?と聞かれると正解が出せない。楽しい気分で書いている筈がいつの間にか苦痛を感じたり、仕上ったと思っていた作品を、翌日見るとガッカリしたり、私にとつ

ては永遠に解答の出せない世界である。だからこそ飽きずに続けて来られたとも言える。

試行錯誤しながら没頭出来るものは他に見つからないほど奥が深い。自分の作品に満足したことはないが、作品を通してメッセージが届けられればと願いを込めて書作している。「誰か一人でも良いから何かを感じて下さる方がいいれば。」展覧会という発表の場があつて良かったと思う。そして、幸せな生き方をさせてもらっているなアとしみじみと思い感謝している。

た苦しみや悲しみ、小さな喜び、前向きな生き方、復興の願いや応援歌などの題材が多く見られるようになり、やはり、そのような作品の前ではしばしば足を止め、感動したり涙ぐんだりしている人を見かける。これこそ文字の力であり、書が生み出す魂と思う。その時に感じたことを書作の基本として書き続けることが、今を生きる者の使命なのかも知れないとさえ思える。

「何事もひとつのことをおしすすめ、い行かばよろし 行きつかずとも」

そして「死ぬまでに満足出来る作品が一点か二点あれば良い」と言われた加藤翠柳・大沢雅休両先生の謙虚さに勇気づけられながら、この年になつて変したと思うが、作品の傾向も変化してきたように思われる。震災で味わつ

山田梓江



書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第66回書道芸術院展鑑別審査

昨年12月20日一般公募・無鑑査作品の搬入、本年1月12・13日事務所近くの共和会館にて鑑別審査が行われた。搬入状況は一般公募の減少が大きく100点を割ることになったのは誠に残念であったが無鑑査はほぼ昨年並みを維持した。

総勢150名余の当番審査員、事務委員、審査部、総務部各役員参加をいただき恩地春洋会長はじめ常務理事以上の幹部に立ち会いをお願いして順調に進行した。12日には全部門の審査まですべて完了し、漢字部・現代詩文書部は事務作業を翌13日に行つた。

今回展では展示会場の余裕、出品数の減少を考慮して、一般公募の入賞率を55%から60%に引き上げた。無鑑査の入賞率は従前通り40%とした。

1月29日には審査会員・審査会員候補の書類搬入が行われ、2月8日東京都美術館へ作品搬入、9・10日に特別賞をお招きして開催される。17日前より10時から第64回全国学生書道表彰式が、お隣の東京国立博物館平成館大ホールにて作品研究会表彰式、祝賀会がご来賓をお招きして開催される。

更に15日陳列、16日午後帝国ホテルにて作品研究会表彰式、祝賀会がご来賓をお招きして開催される。17日前より10時から第64回全国学生書道表彰式が、お隣の東京国立博物館平成館大ホールにて開催される。

ルにて、島谷弘幸東博副館長の「博物館、どんなとこ?」をタイトルに講話をいたいた後、表彰式を行うことになっている。

3年ぶりの都美、初めての東博大ホールでの学生展表彰式となり事務局では万全を期して諸準備に取り組んでいる。皆様のご理解とご協力を願いしたい。

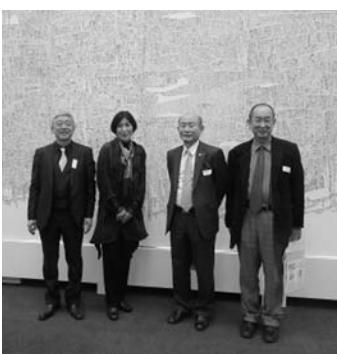
今いきづく墨の華 現代の書 新春展 盛大に

干支が一巡する巳年の開催は、和光会場31人展、セントラル会場100人展として1月5日から13日まで新春銀座を

彩る書の祭典として盛大に開催された。出品メンバーは既報のとおり、院関係者は合わせて9名が力作を発表した。(別掲参照)



恩地会長と



出品者(千葉・下谷・小竹先生)と

TOKYO書2013 公募団体の今

東京都美術館の新企画として昨年4月から美術ジャンルごとに開催してき

たもの。1月4日から16日まで都美B1、2棟に一人10mの壁面に1~3点を発表。18団体より推薦された39人の中堅若手作家の意欲作が展開された。作風は様々で正に現代の書の先端をゆく作品は観る者を圧倒した。

書道芸術院からは小竹石雲、下谷洋子と千葉蒼玄の3氏がチャレンジ、それぞれ気迫のこもった作品を発表され、存在感を示した。中でも千葉蒼玄氏の超大作は横9m、縦4mに昨年の大震災の新聞記事を微細な筆遣いで書き込み、約1年がかりで制作。あたかも押し寄せる巨大津波を思わせる全体構成で、ひとときわ精彩を放っていた。

この企画は今後も継続されることになつており、書は毎年年頭に開催され、出品メンバーは交代することになつている。

「書聖 王羲之」特別展 東博で

毎日中国交正常化40周年を記念して、

毎日新聞社・NHK・東京国立博物館などが主催する大掛かりな展覧が1月22日より3月3日まで開催される。

書聖といわれた王羲之の全貌を内外の名品展示により明らかにする特別展である。過去これほどの規模で行われたことはなく、正に空前絶後の規模となつた。詳しくはパンフレット、毎日新聞紙上での特集、更にNHK特別番組の放映もあり、参考にされたい。

1月31日には会場の平成館ラウンジにて毎日書道会の代表作家5名による臨書と創作の席上揮毫が行われる。石飛博光(漢字)、宮崎紫光(かな)、辻元大雲(近詩)、片岡重和(大字)、中原茅秋(前衛)の五氏。午後2時開始。また2月13日には山中翠谷氏によるワークショップ「王羲之『行穰帖』」で双鉤填墨に挑戦が予定されている。30名定員で事前申し込みが必要。パンフレット参照。

記念講演会も2月2日、2月10日に

いずれも13時30分より、畠田淳博列品管理課長、名児耶明五島美術館学芸部長により行われる。聴講申し込みはパンフレット参照。

毎日書道展女流作家による恒例の催しは2月6日から14日まで、日本橋高島屋8階ホールにて開催。新進作家展も併催される。ご高覧を。

第44回現代女流書100人展開催

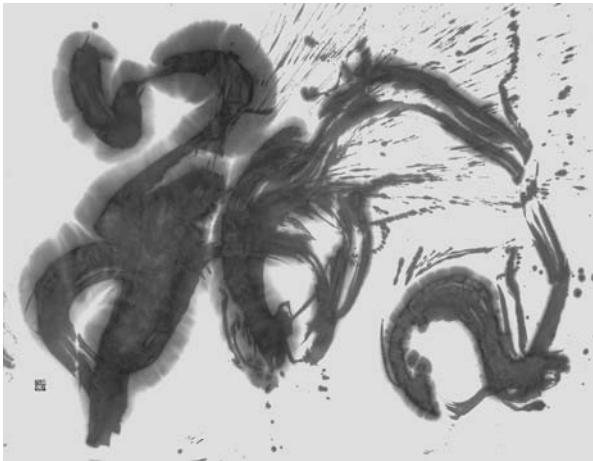
毎日書道展女流作家による恒例の催しは2月6日から14日まで、日本橋高島屋8階ホールにて開催。新進作家展も併催される。ご高覧を。

漢字(五)

石田春窓

かな(五)

平川峰子

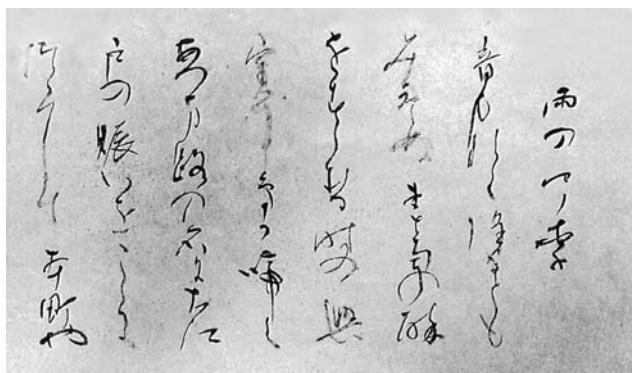


「翔」

石田春窓書

21世紀の書

—私の主張—



「故 永井幸子先生
平成元年十月第22回玉松会書展
テーマ「消息」長唄・雨の四季
(池田弥三郎作詞)」

私は、私がかなを勉強するきっかけもそうでした。学生時代の夏休み実家に永井先生から聯に書かれた巻紙のお手紙をいただき大変感激し、こんな素敵なお手紙を書きたいと思ったからです。使用された聯は永井先生が聯落作品を書かれた折の切り落としの紙です。私もそれからは聯落作品ばかり書いたものです。写真は永井先生が内田鶴雲先生の消息を参考にされた作品です。

淡墨のにじみ具合は、大字書のイメージを大きく変えます。美しい墨色を出すのに大変苦労しています。

墨を磨って書き始める迄の経過時間や、紙との出会いも大切な条件になります。にじみ具合は書き手の運筆の速度、気温、湿度、書く時間帯によって魔法のように変化します。私は朝のさわやかな時間帯、湿度が適当な時が良

いと思っています。

孫過庭の書譜の中にも、調子の良い時ばかりでもないので、気持の充実を

会得することの方が大切であると書かれています。

「翔」は全体にスピード感を出し筆の鋒先が強くあたるよう終筆は渴筆にして余韻を残したいと思いました。

かな(五)

平川峰子

センチュリー文化財団寄託品「日本の書状」を拝見してきました。二条為氏、豊臣秀吉、芳春院(前田まつ)、木食応其、

松花堂昭乘など約30点の書状は

その時代に生きた個人の人柄まで窺えてこれらを大切に保存してきた方々に感謝します。

「書状」は「消息」と呼ぶことも多く、以前、永井幸子先生が玉松会書展のテーマを「古人の消息」にされた時がありました。その一部を転載させていただきます。

「……およそ文字を習いたいという人の大半は、手紙が上手に書きたいと申します……」

かけもそうでした。学生時代の夏休み実家に永井先生から聯に

書かれた巻紙のお手紙をいただき大変感激し、こんな素敵なお手紙を書きたいと思ったからです。

使用された聯は永井先生が聯落作品を書かれた折の切り落としの紙です。私もそれからは聯落作品ばかり書いたものです。写

真は永井先生が内田鶴雲先生の消息を参考にされた作品です。

〈和光ホール31人展〉

「巳」

恩地春洋



干支文字



「淑氣満つ」片山由美子

辻元大雲



干支文字



70×94cm

134×133cm

現代の書新春展

今いきづく墨の華

和光ホール31人展

セントラル会場100人展

2013年1月5日(土)～13日(日)
銀座・和光本館6階
2013年1月5日(土)～13日(日)
東京セントラル美術館

主催…毎日新聞社
(財)毎日書道会

〈セントラル会場100人展〉

干支文字



種谷
萬城

「 滿面春風 」 王實甫『麗春堂』

139×140cm

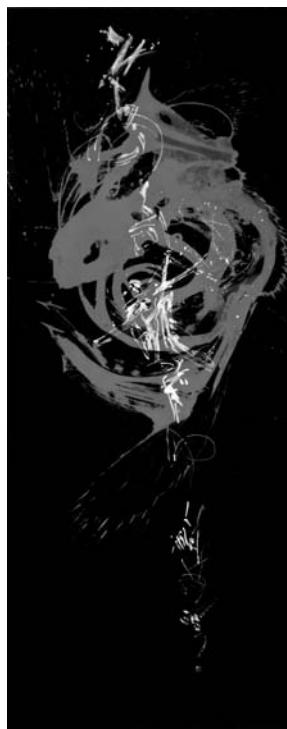
干支文字



干支文字



「
3・
11
復活」



千葉
蒼玄

250×98cm

田村
鄭雲

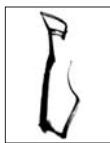


「 福壽草 」 松本たかし

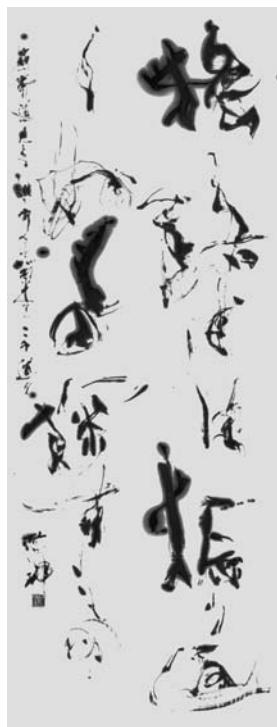
108×167cm

特集：現代の書 新春展

干支文字



「旅路」自作



尾形澄神

242×91cm

干支文字



前田龍雲



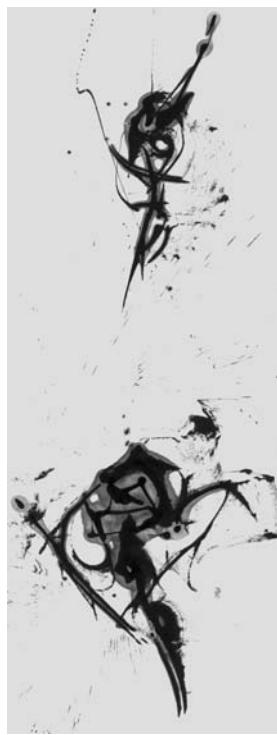
「透」

105×135cm

干支文字



「はじまり」



工藤永翠

243×91cm

干支文字



「蛇男」自作



大隅晃弘
137×140cm



会場看板

TOKYO 書 2013

公募団体の今

<日 時>
平成25年1月4日(金)～16日(水)
<場 所>
東京都美術館（上野公園）
公募展示室 ロビー階第1・第2
<主 催>
東京都美術館
(公益財団法人東京都歴史文化財団)



下谷洋子



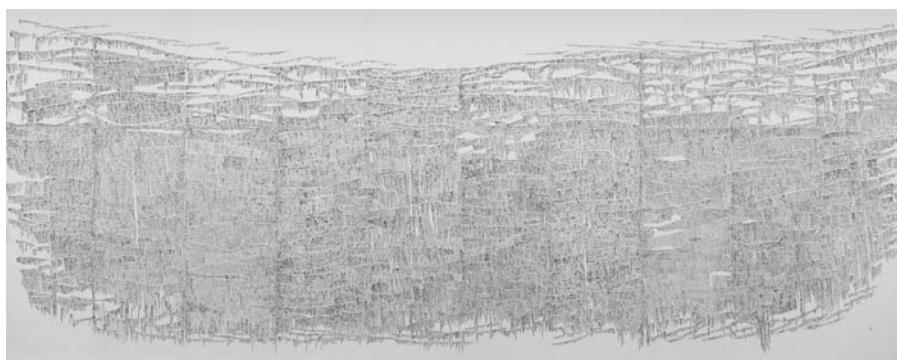
下谷洋子



小竹石雲



小竹石雲



千葉蒼玄

毎日新聞
9 総合・経済 統12版 2013年(平成25年)1月1日(火)

大作「3・11鎮魂と復活」に願いを込めた前衛書家

千葉蒼玄さん(57)



びつりと書き込まれた文
字が迫ってくる。高さ3メートル
がX線の東日本大震災から
の願いを込めた。昨年10月に仕事で東京にい
て失った。押し寄せるように
建物の跡に、黒い墨水で「人からそ
れたものがある」という
「家の墨」新聞紙がへばつ
いていた。流れてもへば
り流れの姿再生への力を
感じこれまでに強い地震が
ある……」。震災発生から1

幸文書社(けんこうぶっしゃ)
主催。書道藝術院事務局長として本部のある東京と石巻を
往復する。毎日書道会評議會。

作品は4・16日に開かれる
「TOKYOの書」(ーーー)(東
京都美術館)で展示される。
写真・矢頭智博 文・三岡昭博



作品部分拡大



会場風景

特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の掲載以外も可

〈解説〉

顏氏家廟碑の碑額は、李陽冰の篆書。唐の建中元年（780）。四面刻で（碑身両面の高さ239センチ、幅123センチ、両側の幅は28センチ）両面は、各々24

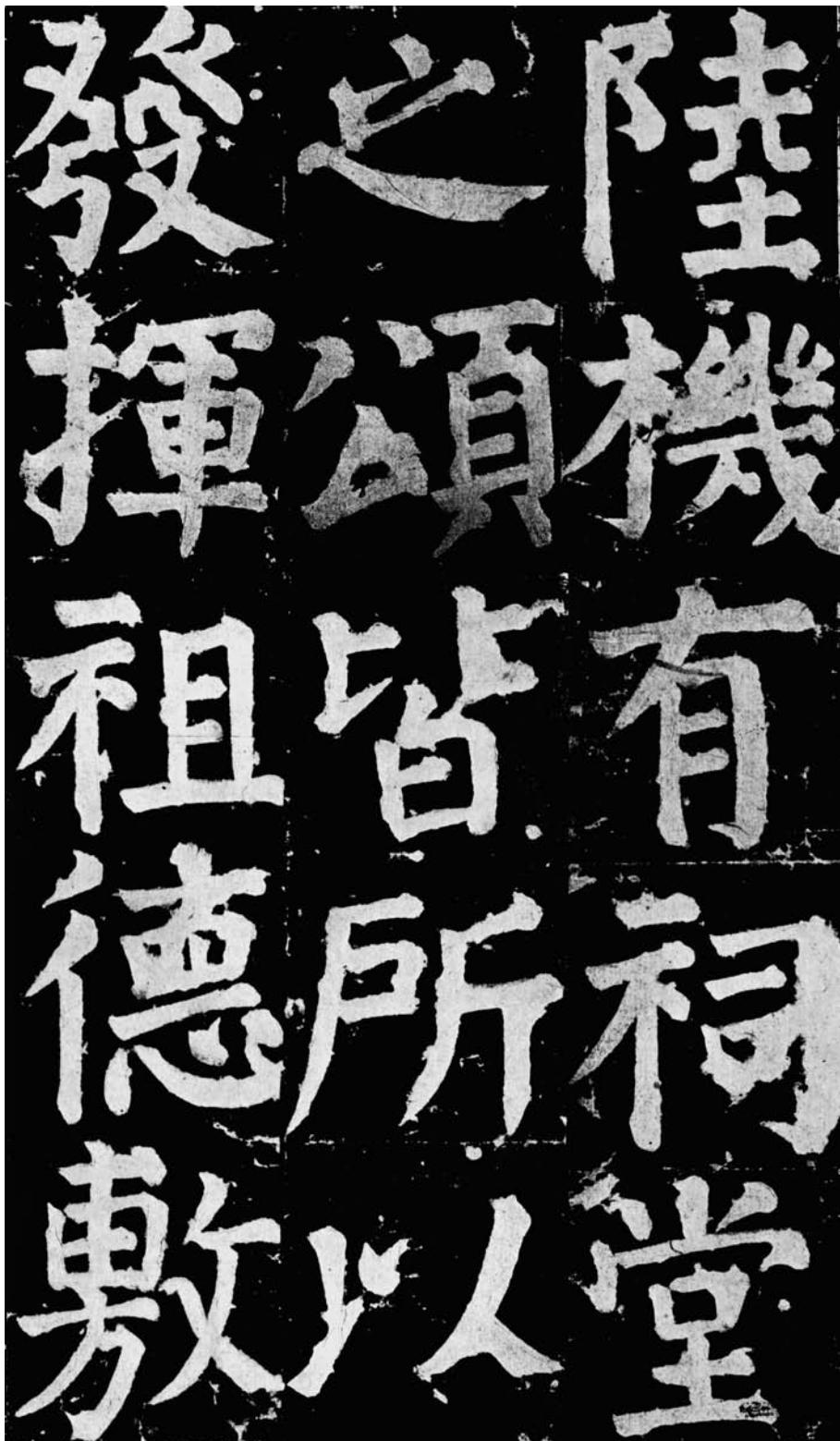
行、毎行47字、両側は、各々6行、毎行52字で、顏真卿の独特的楷書体である。碑は西安の碑林博物館にある。

（編集部）

用紙 半紙普通判
左の法帖の中から
何文字臨書してもよい。
(掲載部分以外は不可)

署名、もしくは
○○臨

※落款を必ず入れる
（押印のみも可）



之頌。皆所以

陸機有祠堂

發揮祖德敷

特別研究部臨書課題

毎日展公募サイズ以内・縦横自由

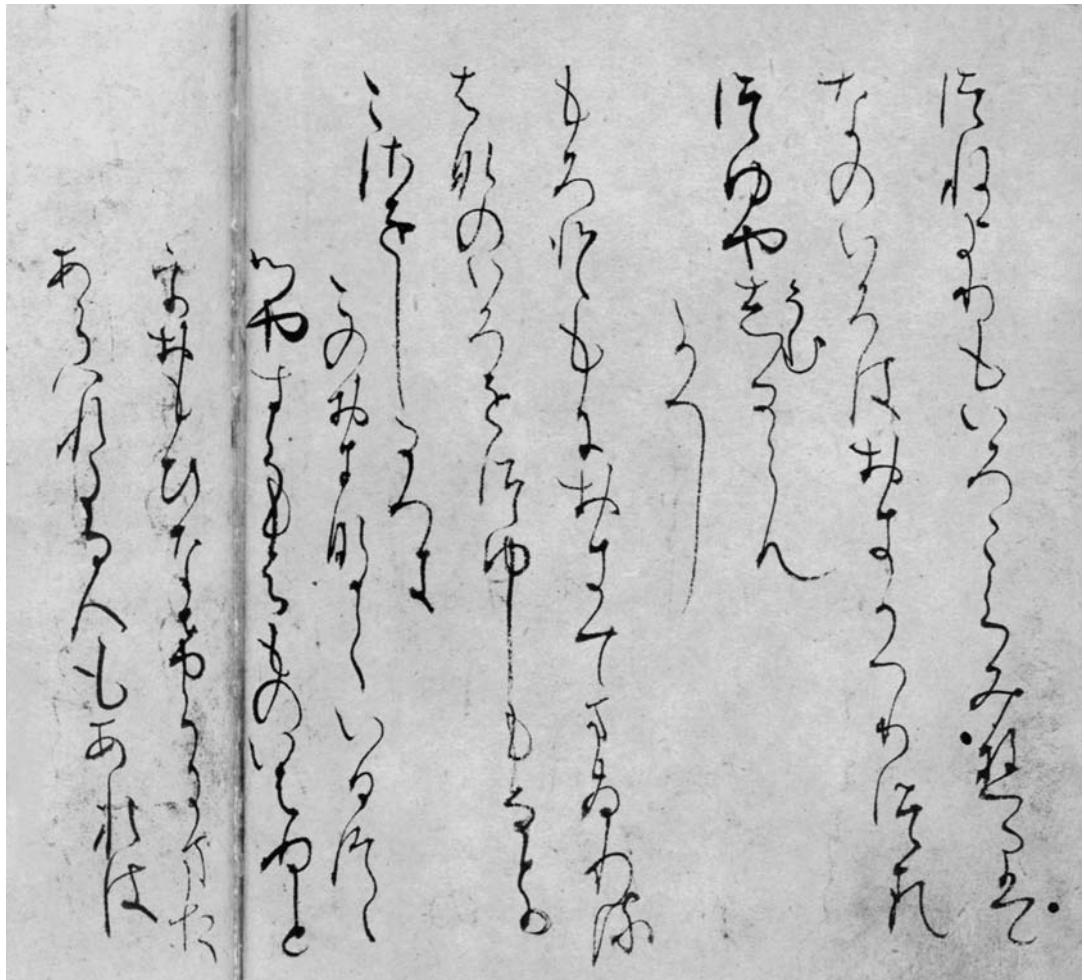
注・かな研究部競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上

を書く。(全脳も可)

・落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみ也可）
・用紙は半紙普通判（料紙可）（たて長に使用）
別紙を裁断して貼付也可。半懐紙は、半紙サイズに切って
使用のこと。

〔解説〕筆者は西行と伝わる
この一条摂政集は、柳形の楮質
の素紙を重ねた大和綴写本一帖
が、孤本（本文を伝える唯一の

書風は、真筆の「一品経和歌
懐紙」や仮名消息と類似し、連
綿の流れの美しい展開だが、同
筆とはいえない。伝西行筆「曾
丹集切」とも似ている。運筆
は、字形の大小にかかわること
なく、自由に旋回するリズムに
乗って、速度感がある。線は軽
快そのもので、非常に繊細でよ
く伸びている。行の流れも、速
さに呼応するかのように恐ろし
いほどの傾きを見せ、うねって
いるところもある。円熟した手
による洗練された気品を持つ名
筆といえる。



最首翠風

一花開天下春
(一花開いて天下春なり)
(虚堂錄)

「一花」は梅花。梅が咲き初め
て、どこもかしこも春となつた—
の意。早春の雰囲気を淡墨で表
現しました。

青山杉雨編の“書道グラフ”一
九八二年十月号は明の徐渭。女美
館十詠。徐渭の詩の稿本で十篇の
詩を宋代の四大家——米元章(米
芾)、黃山谷、蘇軾、蔡襄の書風

をこの順で楽しみながら書いてい
る姿が窺えます。今で言う「なり
きり」の態でしょうか。リベラリ
スト徐渭の面目を躍如とさせてい
る——と杉雨は書いています。わ
が種谷扇舟師も、そんな風に書を
楽しんでいたありし日が目に浮か
びます。

この課題を皆さんに、どのように
料理してくれるか楽しみにして
います。書体、書風を変えて娛し
んください。

一花開天下春

よみ (一花開いて天下春なり)

書体=自由



習い方解説(五)

小浜大明

悠然會心
(悠然として心に會す)
(菜根譚)

今回は顔真卿を念頭に書いてみ

ました。線の肥瘦に気をつけて書いて下さい。顔真卿は横画を細く縦画を太く表現しています。

「悠」下部の心の第二画は、徐々に筆圧を加えていき、撥ねる手前で軽く筆をつりあげ、筆を挫くようにして撥ねます。

「然」“れつか”的四つの点の打ち込む角度が異なっていることに注意し、丁寧に書いて下さい。ややもすると“点”はぞんざいに扱われがちな存在です。
「會」上部の左払いと右払いの角度が異なっていることに注意。
「心」点の打ち方と、打つ位置に注意して下さい。

悠然會心 よみ(悠然として心に會す)

書体=楷書



石井明子

春さればいささ小川のうす瀧
早瀬をなして今日ぞ流るる

(平福百穂)

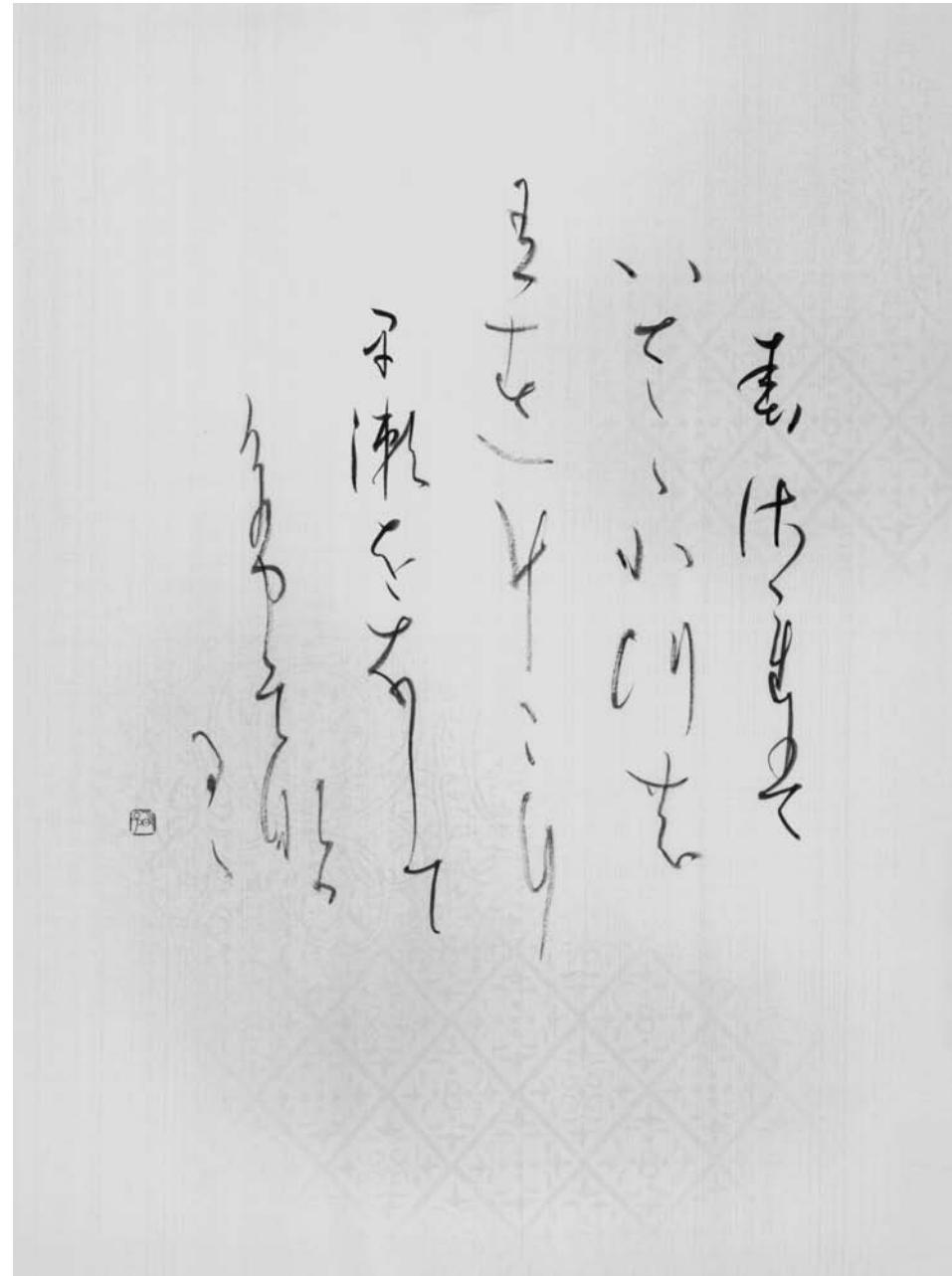
平福百穂(一八七七—一九三三)は、秋田県生。大正・昭和初期の日本画家で、アララギ派の歌人としては家集「寒竹」があります。

絵を業としながら、歌を作るこという異った分野の表現をすることでの、身も心もうまくバランスをとっていたのでしょう。穏やかな歌が多く、作品になり易く、最近、好んで書いています。

ゆるやかな玉子型のつもりで書いてみました。下敷きは作らず、次の行の行頭、行尾の位置を考えながら書き進めます。全体には、下部のあきが広い方が落ち着きます。行頭の墨つぎは本来、避けますが、一番高い所ではないのと、目立たない配慮で致しました。筆はかなり使い込んだものです。筆圧を意識した運筆です。

よみ方 春さ(佐)れ(連)ば(盤)いささ(ゝ)小川の(農)う(有)す(春)に(耳)じり
早瀬をな(奈)してけ(介)ふ(布)ぞな(那)が(可)るる(ゝ)

創作

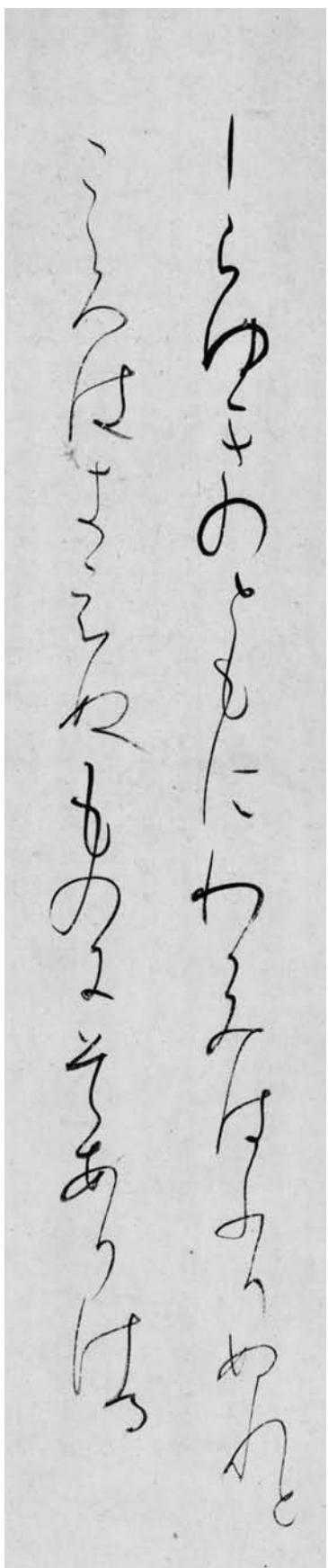


かな規定 秀級以下【二月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

高野切 第三種

(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。



よみ方 しらゆきのともにはわが(可)みはふりねれど
こゝろはき(支)えぬものに(尔)ぞありける

習い方解説 (二)

かな条幅規定【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

奥田瑞舟選書

牡丹雪地に近づきて遅く落つ

(鈴木六林男)

ゆるやかに落ちて来た牡丹雪が
地面に近づいて速度をます。

どうしりと強い牡丹雪になりま
したので、難しい字を使わずに連
綿線のやわらかさで表現したいと
思いました。

一行目に添う形でなく二行の作
品にしました。

*たて形式に限る

よみ方 牡丹雪地に()ちか(可)つきては(者)やく(久)落つ

創作

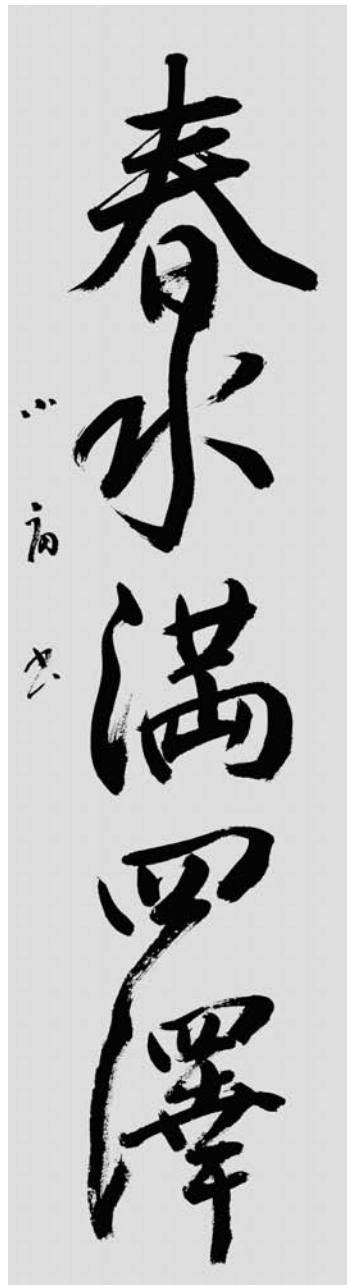
漢字条幅規定 初段以上【三月十五日締めきり】

用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

習い方解説 (五)

辻元大雲



春水満四澤
(春水は四澤に満つ)

(陶潛)

書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小伏小扇選書

習い方解説 (五)

小伏小扇

温まつた水が沼沢の隅々にまで
満ちているという陶潛の句を選び
ました。
文字は自然の流れを感じるよう
に、明るく素直に運筆しました。
「澤」の字は旧字体ですが、この
方がまとまるような気がします。
連綿の箇所や字体も選択次第で変
化します。楽しみながら書きくら
べてください。



梅開水驛歸人路
(梅は水驛に開く歸人の路)

雪滿江帆客夜情
(雪は江帆に満つ客夜の情)

(施閏章)

書体=自由

梅花香る候の早春の景の句です。
「水駅」は水辺の船着き場。「客夜」
は旅中の夜のこと。
今回は隸書で表現してみました。
やや古隸の味を取り入れ、のびや
かさを意図しました。
隸書と一口でいっても様々な書
風があります。どっしりした重厚
な風、シャープな鋭い味。大らか
な摩崖風など。色々楽しんで下さ
い。

習い方解説 (五)

千葉蒼玄

遊びをせんとや生まれけれむ
戯れせんとや生まれけれむ
遊びふ子どもの声聞けば
我が身さへこそゆるがるれ

梁塵秘抄より(編者 後白河法皇)

蒼玄書

小学校の運動会というと紅組、白組に分かれての戦いを思い出すが、その赤と白が源氏と平氏の旗頭を基にしていることを知ったのは去年のNHK大河ドラマ“平清盛”からである。その後の織田信長にしても徳川家康にしてもこの旗頭を掲げ天下統一に向かっている。盛者必衰の代表の平清盛ですが、その初めは大きな心意気を持って世を作ろうとしたが、頂点に上り詰め権力を持つことは人柄さえも変えてしまうのだろうか。

今月はその平家物語の中心人物の人、後白河法皇が編纂した梁塵秘抄をとり上げた。政争に敗れ幽閉されたが、文化面でも歌を数多く残している。

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品
各部総評 No. 620

ペン字部 師範 鶴田 恵子

穏やかな線質に自然な流れが加味され、温雅さを醸し出しており落款まで統一感のある見事な作品。

◎ペン字部総評 全般的に布置は良かつたが、小ぶりの作品が多く流れと字形の研究を古筆から学びたい。今年一年に期待。（和楓評）

一九 菊あ

一衣帶水——筋の帯のように細く長川や海峡、転して両者の間に筋の細川ほどの狭い隔たりがあるだけきわめて近接しているたとえ、衣帶は衣服の帯。細く長いたとえ、恵子書

かな条幅部 師範 宮澤 草秋
強く、しなやかな運筆は、典雅な趣を湛えて美しい。墨量がぼかし染めの料紙に相応しく格調高い。



江雲樹暮天低杳空

祥泉書

現代詩文書部 特選 島中 成山

大空を翔け舞う風に強い気迫を感じる。自在に筆を操る技術の確かさ、余裕ある小書きことが調和す。

◎現代詩文書部総評 上位作品にはねらいがしっかりと、バラエティーに富んだ作多し。（石雲評）

前衛書部 特選 上路 彩炎

イメージによるリズムの流れ、特に滲が作品を引きたて清楚で気品の高い作風となっている。

◎前衛書部総評 全体的にレベルが向上している。さらに斬新な作風を期待します。（光昭評）



漢字部 師範 松島 翠舟
説文篆文を基に金文風にデフォルメした創意工夫の作。線と字形に独自の趣きがあり、感性豊か。

◎漢字部総評 参考手本に似た作品が多い中、創作意欲に溢れる作品も見られました。上級者は創作を。（萬城評）

かな部 師範 優田由美子

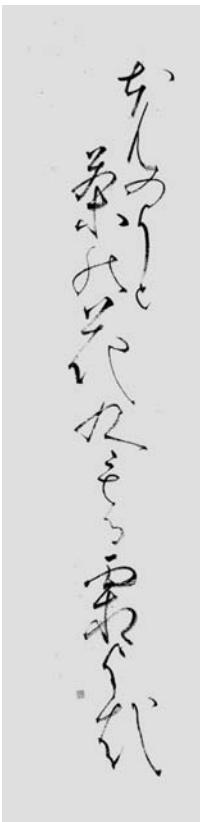
歯切れのよいタッチが途切れることなく続き、文字の大きさ、墨色ともバランスのよい充実作です。

◎かな部総評 参考作に準じたものは大概よく出来ていた。墨は薄すぎても濃すぎても適さない。渴筆のあり方に配慮を！（洋子評）

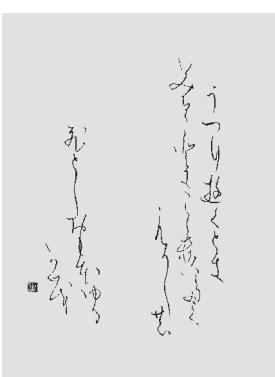
八分隸書全碑の風を得て安定作。隸書筆法をよく修得され、バランスよくまとまり切った作である。

◎漢字条幅部 師範 森下 祥泉
書体自由の条幅部は色々工夫できる楽しさがある。院展出品作へつなげる創意ある作を望む。（大雪評）

（大雪評）



◎かな条幅部 総評 無難にまとめた作が多かったが、霜と哉に誤字多く残念。確認を。又、墨色、墨量への配慮を望みます。（明子評）



かな部 師範 優田由美子

歯切れのよいタッチが途切れることなく続き、文字の大きさ、墨色ともバランスのよい充実作です。

◎かな部総評 参考作に準じたものは大概よく出来ていた。墨は薄すぎても濃すぎても適さない。渴筆のあり方に配慮を！（洋子評）

今月の

特別研究部優秀作品(特選)



佐藤詠子書

69×115cm

前衛書
(湘南)

佐藤詠子

漢字(大雲)
長島僊雨
「五言二句」



長島僊雨書

137×70cm

◆筆の持つ表現を巧みに使って字に思いもかけない動きを出し、全體に躍動感を与えていている。

(大雲評)

◆朴訥な雰囲気を漂わす隸書対聯作。あたか味のある柔らかな筆致が情感を醸し出している。

(明子評)



市川紫泉書

48×168cm

現代詩文書
(八戸)

市川紫泉

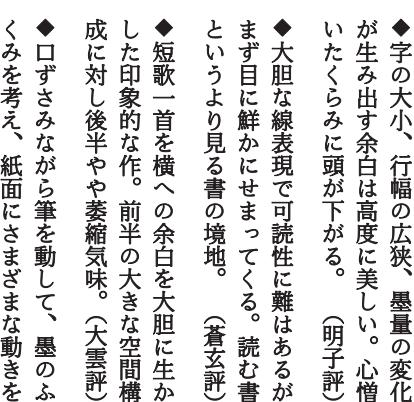
「伊藤左千夫の歌」

◆造型美の確かに、技術の確かに、が生み出す世界は、眺めていて飽きません。身辺に変化ありや? が生まれる。聯にした形も落ち着きがあつて品位を感じる。

(蒼玄評)

◆隸書を素朴な筆法で表現して重厚さがある。聯にした形も落ち着きがあつて品位を感じる。

(明子評)



市川紫泉書

◆字の大小、行幅の広狭、墨量の変化が生み出す余白は高度に美しい。心憎いたくらみに頭が下がる。(明子評)

◆大胆な線表現で可読性ははあるがまず目に鮮かにせまってくる。読む書というより見る書の境地。(蒼玄評)

◆短歌一首を横への余白を大胆に生かした印象的な作。前半の大きな空間構成に対し後半やや萎縮気味。(大雲評)

◆口づさみながら筆を動して、墨のふくみを考え、紙面にさまざまな動きを表現されている楽しい作。(倫子評)

臨書（弘舟）

渋谷由美子「孟法師碑」

◆一点一画よく原帖を見て書いている。孟法師の持つ懐の広さもよく表現されている。

漢魏豪傑殉榮利於窮途何異乎蟬生於崇朝爭長龜秋豪出於未兆
計大於喧闐者若遯岱山龍駕傳神丹之秘決秦都鳳祠流洞簫之妙

響用能延頸年於昧谷振朽骨於玄廬白玉之簡祈西王而可值青雲之
衣師東陵而易襲豈非庶世之寶術登遊之妙道馬法師俗姓孟氏諱靜
素江夏安陸也其先後成仁繼跡於孔墨冬筭表德齊聲曾聞是以贈
則當世鈞類後昆軒冕之盛既富於天爵賢明之質獨孟法師碑由美子臨

渋谷由美子臨

35×136cm

臨書（一弦）

木村貴衣

「秋萩帖」

◆心の糸が切れなく書いた力はすばらしい。

◆ただ、変化の事を考えると一面的で、もつと全体に生氣を与えたいたい。
(倫子評)

◆困難な課題に真正面からとり組んだ姿勢に敬服。更に繰返しの学習で、深さが増すのではと感じます。
(明子評)

◆かなはリズムが命である。速い書き方は調子が取りやすいが、この古典のゆつたりさは難かしい。
(蒼玄評)

◆秋萩帖の臨書は難しい。特徴的な線質をどう表現するか。丁寧に心静かに向かい合う姿勢を買う。
(大雲評)

創作の部(52点)

漢字—11点
かな—0点
現代—23点
篆刻—1点
前衛—17点
かな—6点

臨書の部(20点)

漢字—14点
現代—1点
篆刻—1点
前衛—17点
漢字—14点
かな—6点

現代詩文書(翠苑)

（明子評）

（大雲評）

◆沈着な運筆。墨のふくませ方に無理なく流れを一貫させてまとめている。波法は慎重で考えた運筆。
(倫子評)

◆見ていて落書きをもたらす書に会えて幸せです。古典は形でその作者を追って、心に到達しますね。
(明子評)

総出品点数
72点

〈特選候補者〉
（創作の部）
〔漢字〕
千葉 東原 扇桜
墨宣 鑄木 梅道
苑書 武山 櫻子
〔現代詩〕
西川 藤象
大雲 池田 沙靜
もく 森田 藤谷
〔前衛〕
四谷 角田 悠香
蓮紅 大友 紅蓉
秀水 坂井 初江
香書 大木 清香
〔臨書の部〕
樹原 庄司 咲艸
〔漢字〕
英峰 吉瀬 彩雨
英峰 佐藤 桂香
大雲 江本 興舟
安波 鈴木 英晴
〔かな〕
かな

164×43cm

現代詩文書(翠苑)

梅田紅雨
「ありがとう」

◆出だしの墨のつけ方少し平凡な感じがある。紙面の変化を考えると墨の多少又字形にご一考を。
(倫子評)

◆暖かい気持にさせられる言葉がリズムに乗って響いてきます。思ひが視覚を通しても伝わる快い作品。
(明子評)

◆淡淡とした調子で一文字一文字をゆったりと読み聴かせるように書いている。視覚より音色を感じる。
(蒼玄評)

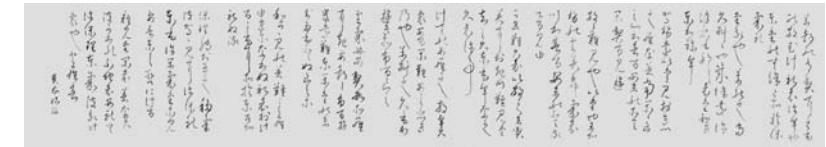
◆東日本大震災で被災した子の詩を淡淡と表現。率直な気持が紙面に自然なりズムを醸し出す。
(大雲評)

梅田紅雨書

（大雲評）

木村貴衣

（弘舟）



漢字研究部
(孟法師碑)

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



上田 啓翠

◎漢字研究部總評

孟法師碑は学書者にとって、基礎基本を学ぶ最適の教材とされています。用筆は角張った点画や逆に円味のある点画があります。字形も偏平、縦長、方形とさまざまです。こうした特徴のある法帖をどのような視点でとらえ臨書されるのか。千三百点を超す作品を見せていただきました。多くの方が形臨、意臨には線も用筆も自由に書いた方がいましたが、結構や性情をくみとての臨書が大切です。



萩雅炎 和黃文
加光悠 秀江翠子

蒼純 翠貴 真安
実香 紀子 理子

美啓 総香 友淑
梢子 香里子 舟江

この法帖で何を学ぶのか、目的がしつかりしている方です。横画一つ見ても始筆で軽く押さえ、途中で吊り上げ、圧を加えて終筆。紙へのまとめも堂々として白が輝いています。

上田 啓翠

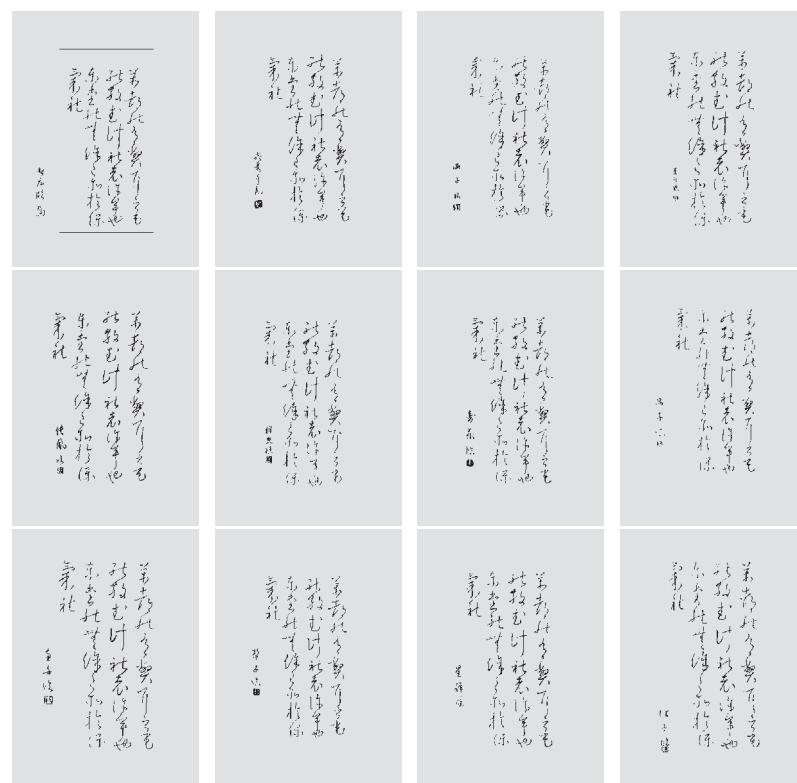
漢字研究部 特選 上田 啓翠

ぶ最適の教材とされています。用筆は角張った点画や逆に円味のある点画があります。字形も偏平、縦長、方形とさまざまです。こうした特徴のある法帖をどのような視点でとらえ臨書されるのか。千三百点を超す作品を見せていただきました。多くの方が形臨、意臨には線も用筆も自由に書いた方がいましたが、結構や性情をくみとての臨書が大切です。

かな研究部
(秋萩帖)

選評 勝山初美

今月のホープ作品



恵純智

哲雅炎

星壽溫

信昌蓉

舟風広

子泉秀

祥藏子

子子汀

かな研究部		特選	宮澤	草秋
秀	大石翠龍上 A 竜如澄秀豊巣奥紅や竜竹こ渡 N 秀 A 小硯	漢字からかなへ移行してゆく途中の草かな・筆意	を切らずに書くのは難しいが、温和で自然な筆遣い	
江字碓伊石生阿作ひ	阪習柳泉泉 I 泉月春水田張田瑠ま泉扇だ辺 H 水 I 汀水	で品格も高い。見る者の心が包みこまれてゆきます。	良く書けていました。汚れか線か字母を確認した上	
茂華京さ萩春夫泉弘子花清	池金犬近後山伊加金宮寺小北小鈴田高山大鐵川門藤永宮澤寺	で誤字に注意し、墨色にも配慮しましょう。		
もく佳	松千長京木前千前玉詢王高正遊麗書大泉玉う湘高竜清大鬼大華大樹玉上高村葉橋曜橋葉橋松扇川崎華雲澤泉雲会松の南崎泉月雲高雲祥阪原藻泉井	◎ かな研究部総評	全体的には、連綿の少ない秋萩帖の特徴をとらえ	
青木作	茂松増堀堀別平春橋野野根永長富都積田田進佐酒後小高神河加小奥藤大楓木重田川江府山山本村中本井田丸田野中藤井藤林武田合藤野山原沢田	良く書けていました。汚れか線か字母を確認した上	良く書けていました。汚れか線か字母を確認した上	
藤漣	翠翠佳魯幸信彩勝紅陽喜雅宏久瑞ど雅可耶寿詠惠知嘉玄典和雅萩翠玉淑和芳景子春泉子華美霞詢子子枝仙翠り雲三衣子子子江城子敬芳光峰藻江子	で誤字に注意し、墨色にも配慮しましょう。	で誤字に注意し、墨色にも配慮しましょう。	
秀遊竜秀恵雲泉歌入	こも清椿蘭生石正高生た上は椿上さ千秀童澄松王た大蒼高彩福蘭竹こ安大秀椿	かな研究部成績表	漢字からかなへ移行してゆく途中の草かな・筆意	
阿安浅瀬部川川みみ雅明な君悠隆江子	吉吉大安森宮松松藤浜演長橋中戸富高新鹿塙猿後込北岸川河加小押大遠字宇岩市磯石石飯飯安新新阿野種和鳴下丸岡浦本野田谷本村島村澤山行田澤渡藤山村田崎崎岡藤野山森藤田井上川貝橋崎高嵐藤井久澤隆華	を切らずに書くのは難しいが、温和で自然な筆遣い	で品格も高い。見る者の心が包みこまれてゆきます。	
佐佐佐櫻酒齊齋近近小古小小小河河小黒熊工楠陸木木吉菊菊川川片小小冲大梅梅生岩岩猪伊石石石池五飯新荒藤々々田井藤藤藤山矢路林藤島野野柳谷藤元原瀬池池元本上野野野野原津方崎上又藤丸崎川川田十田井井	秀	漢字からかなへ移行してゆく途中の草かな・筆意	を切らずに書くのは難しいが、温和で自然な筆遣い	
芳京昌樹華やも紅千調春玉選蘭橋苑原祥	幕平大澄蓮秀澄大椿や幕樹玉遊澄雲	で品格も高い。見る者の心が包みこまれてゆきます。	で品格も高い。見る者の心が包みこまれてゆきます。	
194名氏名略	帥遊一秀春明大英幕春童東紅竜士正誠樹明光昆た生外	◎ かな研究部総評	全体的には、連綿の少ない秋萩帖の特徴をとらえ	
信佑翠一桜律藤真笑達美敏翠笙白華美歌佳美つ美玉梅千彩秋游雅喜溪雅宏文惠丈美蒼賢久龍希香利祥佳翠咏祢由和冬美	選評 勝山初美	良く書けていました。汚れか線か字母を確認した上	良く書けていました。汚れか線か字母を確認した上	
漢字からかなへ移行してゆく途中の草かな・筆意	を切らずに書くのは難しいが、温和で自然な筆遣い	で品格も高い。見る者の心が包みこまれてゆきます。	で誤字に注意し、墨色にも配慮しましょう。	
秀遊竜秀恵雲泉歌入	こも清椿蘭生石正高生た上は椿上さ千秀童澄松王た大蒼高彩福蘭竹こ安大秀椿	かな研究部成績表	漢字からかなへ移行してゆく途中の草かな・筆意	
阿安浅瀬部川川みみ雅明な君悠隆江子	吉吉大安森宮松松藤浜演長橋中戸富高新鹿塙猿後込北岸川河加小押大遠字宇岩市磯石石飯飯安新新阿野種和鳴下丸岡浦本野田谷本村島村澤山行田澤渡藤山村田崎崎岡藤野山森藤田井上川貝橋崎高嵐藤井久澤隆華	を切らずに書くのは難しいが、温和で自然な筆遣い	で品格も高い。見る者の心が包みこまれてゆきます。	
佐佐佐櫻酒齊齋近近小古小小小河河小黒熊工楠陸木木吉菊菊川川片小小冲大梅梅生岩岩猪伊石石石池五飯新荒藤々々田井藤藤藤山矢路林藤島野野柳谷藤元原瀬池池元本上野野野野原津方崎上又藤丸崎川川田十田井井	秀	漢字からかなへ移行してゆく途中の草かな・筆意	を切らずに書くのは難しいが、温和で自然な筆遣い	
芳京昌樹華やも紅千調春玉選蘭橋苑原祥	幕平大澄蓮秀澄大椿や幕樹玉遊澄雲	で品格も高い。見る者の心が包みこまれてゆきます。	で品格も高い。見る者の心が包みこまれてゆきます。	
194名氏名略	帥遊一秀春明大英幕春童東紅竜士正誠樹明光昆た生外	◎ かな研究部総評	全体的には、連綿の少ない秋萩帖の特徴をとらえ	
信佑翠一桜律藤真笑達美敏翠笙白華美歌佳美つ美玉梅千彩秋游雅喜溪雅宏文惠丈美蒼賢久龍希香利祥佳翠咏祢由和冬美	選評 勝山初美	良く書けていました。汚れか線か字母を確認した上	良く書けていました。汚れか線か字母を確認した上	